

科目名	看護学演習		選択必修	必修
担当教員	安酸史子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、原玲子、志賀くに子、高田由美、阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、百瀬由美子、山田聡子、野口眞弓、大西文子、東野督子、森田一三、長谷川喜代美、カルデナス暁東、小林尚司、田村由美、中信利恵子、百田武司、小松浩子、櫻本秀明、高橋清美、永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子			
科目区分	演習	単位数	2 単位	オフィス アワー 教員一覧参照
開講時期	1年次 通年	時間数	60 時間	
■ 授業の目的 看護学演習は、合同研究ゼミナール、特別研究へつなぐ授業科目と位置づける。国内外の文献検討やフィールドワーク、ディスカッションを行うことにより、研究テーマを絞り込み、明確にする。必要とされる理論と方法論、技法等を習得し、研究課題から研究方法を検討し、研究計画書を作成することを目的とする。				
■ 授業の概要 看護学とその隣接領域において、国内外の文献を検討材料とし文献レビューを行い、より専門性を深めるとともに、各自の関心領域において課題解決が必要とされるテーマ、研究課題の明確化及び研究方法を検討する。さらに、課題解決に必要なとされる理論と方法論、技法について実証的に探求する手法を習得する。				
回	授業内容及び方法			担当
	【授業の進め方】 各担当教員と相談し、関心のある研究テーマについて以下の通り演習を行う。 1～8 関心のある研究テーマに関する文献検討 9～14 研究テーマの明確化 15～20 研究テーマに関するフィールドワークとディスカッション 21～28 研究テーマに関する研究デザインの検討 29～30 プレゼンテーションとディスカッション			
■ 準備学習 授業の内容を踏まえ、次回の授業までに資料を作成しておくこと。				
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。				
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。				
■ 成績評価の方法及び採点基準 文献レビュー、プレゼンテーション、討議内容から総合的に評価する。				
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。				

研究指導教員名と指導の概要

・安酸 史子

看護学生教育(特に実習教育)、患者教育(特に慢性期の患者教育)、看護師教育、看護教師教育についてケアリング理論を基盤に実践研究の方法論について探求する。

・西片 久美子

糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる成人・高齢者とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・石崎 智子

療養生活を送る人々やその支援者のメンタルケアに焦点を当てたメンタルヘルスの在り方について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・志賀加奈子

国内外における子どもへの予防接種の現状と課題を通して、予防接種を受ける子どもと家族の支援について探求する。

・原 玲子

質の高い看護サービスを提供するための看護管理上の課題および看護職のキャリア発達支援と人的資源活用上の課題を明らかにし、課題を解決するための研究手法を探求する。

・志賀 くに子

現代の思春期を取り巻く環境を理解し、思春期を中心とした健康教育のあり方について課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・高田 由美

療養生活を営む人々への看護実践における多様な課題に関する研究成果を基盤として、関心領域における研究課題および方法について探求する。

・阿部 範子

親の育児困難感を低減するためには多くの要因が存在するため、本領域の研究遂行には焦点化が重要となる。個々の興味も含め、社会的意義や実施可能性を十分に検討しながら課題を明確にし研究方法を探求する。

・新田 純子

慢性疾患とともに生活する人々への看護実践における多様な課題に関する研究成果を基盤として、関心領域における研究課題および研究方法について探求する。

・鎌倉 やよい

周術期にある人、摂食嚥下障害を有する人に対する看護ケアプログラムの開発を中心課題とし、主にシングルケースデザインに基づき、研究課題の明確化と研究方法を指導する。

・百瀬由美子

介護予防、認知症高齢者ケア、家族介護者支援、老年・在宅看護学領域における倫理的課題等に関する文献のクリティーク及び研究課題の明確化と研究方法について検討する。

・山田 聡子

看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法、および臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する研究課題の明確化と研究方法を検討する。

・野口 眞弓

在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・大西 文子

てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・東野 督子

周術期にある人、療養環境における感染予防、口腔ケアなどの援助や患者教育にかかわる研究課題の焦点化と方法の検討を教授する。

・森田 一三

量的研究を主とし、公衆衛生学、歯科学に関する研究指導を行う。

・長谷川喜代美

地域における看護活動、主として行政保健師の活動に関する研究課題の明確化と研究方法の検討を行う。

・カルデナス暁東

多様なニーズをもつ慢性疾患とともに生きる人々の自分らしい療養生活への支援に関する研究課題の焦点化と方法論について探求する

・小林尚司

高齢者介護施設における看護および看護師への支援に関する研究課題の明確化と研究方法の検討を行う。

・田村 由美

看護実践と多職種連携協働(IPE&IPW)に焦点化し、IPE&IPWの概念、諸理論を理解する。Interprofessional Health Care Practiceの実践例、研究報告文献を紐解き、研究課題や方法論を吟味する。

・中信 利恵子

災害サイクルの各期における災害医療や看護活動における現象や課題を明らかにするために、国内外の文献研究を行い、研究課題の明確化とともに研究方法論を探求する。

・百田 武司

特論で学んだ、ベストプラクティスを提供し、脳卒中後遺症患者・介護家族のアウトカムを向上させるための理論や方法について理解を深め、実際に研究として展開する際の計画書を作成する。

・小松 浩子

がん看護ならびに緩和ケア領域における関心テーマについて文献研究を行い、研究課題の焦点化や方法論の検討を行う。

・櫻本 秀明

クリティカルな状況にある患者やその家族に対する看護について、国内外の知見の系統的な文献研究をおこない、研究課題の焦点化や方法論の検討を行う。

・高橋 清美

メンタルヘルス領域における摂食嚥下障害や摂食嚥下機能支援に関する国内外の文献レビューを行い、研究課題の明確化や研究方法を検討するとともに、摂食嚥下障害や摂食嚥下機能不全を解決するために必要とされる理論や方法論、技法について実証的に探究することを学修する。

・永松 美雪

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関連する要因や予防モデルについての文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を検討する。

・姫野 稔子

在宅高齢者に対する看護介入の効果ならびに看護介入モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・本田 多美枝

専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論、実践から学ぶ方法、実践能力の開発・熟達化に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・柳井 圭子

質の高い看護・人材開発を支えるための法政策に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。